


Docket No.: 43890-471

J. J.
#6 6-1-01
*Priority
Paper*
PATENT
JC490 U.S. PRO
09/741157


IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of :
: Makoto NAKATSU :
: Serial No.: : Group Art Unit:
: Filed: December 21, 2000 : Examiner:
: For: AUDIO STORAGE APPARATUS :

**CLAIM OF PRIORITY AND
TRANSMITTAL OF CERTIFIED PRIORITY DOCUMENT**

Commissioner for Patents
Washington, DC 20231

Sir:


In accordance with the provisions of 35 U.S.C. 119, Applicant hereby claims the priority of:

Japanese Patent Application No. 11-367198,
filed December 24, 1999

A certified copy is submitted herewith.

Respectfully submitted,

MCDERMOTT, WILL & EMERY


Michael E. Fogarty
Registration No. 36,139

600 13th Street, N.W.
Washington, DC 20005-3096
(202) 756-8000 MEF:klm
Date: December 21, 2000
Facsimile: (202) 756-8087

PRIORITY DOCUMENT

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

DECEMBER 21, 2000

NAKATSU

McDermott, Will & Emery

JCS 00 U.S. Patent
09/74115
12/21/00

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

1999年12月24日

出 願 番 号

Application Number:

平成11年特許願第367198号

出 願 人

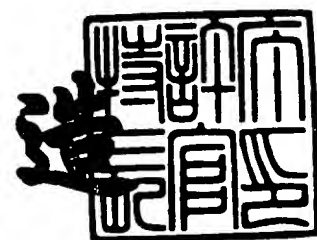
Applicant (s):

松下電器産業株式会社

2000年12月 8日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2000-3103167

【書類名】 特許願

【整理番号】 2913011255

【提出日】 平成11年12月24日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04M 3/42

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 中津 誠

【特許出願人】

【識別番号】 000005821

【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100097445

【弁理士】

【氏名又は名称】 岩橋 文雄

【選任した代理人】

【識別番号】 100103355

【弁理士】

【氏名又は名称】 坂口 智康

【選任した代理人】

【識別番号】 100109667

【弁理士】

【氏名又は名称】 内藤 浩樹

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 011305

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

特平 1 1 - 3 6 7 1 9 8

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9809938

【プルーフの要否】 不要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 音声蓄積装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】メインガイダンス、応答メッセージ、入来メッセージ等の音声データを蓄積する音声蓄積部と、前記音声蓄積部に蓄積された音声データを読み出すと共に音声データを蓄積するための音声データ制御部と、全体を制御すると共に前記音声蓄積部に蓄積された音声データの再生や前記音声蓄積部への音声データの蓄積を前記音声データ制御部を介して行う中央制御部と、電話回線や構内交換機内線を含む回線等との接続を行う回線インターフェイス部と、前記回線等から入来する入力信号から発呼者情報を検出する発呼者情報検出部と、発呼者情報毎に各メールボックスの応答メッセージを割り付けるメールボックス応答メッセージ管理部とを有し、前記中央制御部は、前記回線等から前記回線インターフェイス部への着信時には前記音声蓄積部に蓄積したメインガイダンスを前記音声データ制御部を介して再生し、前記入来する入力信号に基づいてメールボックスの応答メッセージの聴取の要求が有ると判定した場合は前記発呼者情報検出部が検出した発呼者情報に応じた応答メッセージを前記音声データ制御部を介して再生することを特徴とする音声蓄積装置。

【請求項 2】メインガイダンス、応答メッセージ、入来メッセージ等の音声データを蓄積する音声蓄積部と、前記音声蓄積部に蓄積された音声データを読み出すと共に音声データを蓄積するための音声データ制御部と、全体を制御すると共に前記音声蓄積部に蓄積された音声データの再生や前記音声蓄積部への音声データの蓄積を前記音声データ制御部を介して行う中央制御部と、電話回線や構内交換機内線を含む回線等との接続を行う回線インターフェイス部と、前記回線等から入来する入力信号から発呼者情報を検出する発呼者情報検出部と、発呼者情報毎に各メールボックスの応答メッセージを割り付けるメールボックス応答メッセージ管理部とを有し、前記中央制御部は、前記回線等から前記回線インターフェイス部への着信時には前記音声蓄積部に蓄積したメインガイダンスを前記音声データ制御部を介して再生し、前記入来する入力信号に基づいて特定メッセージの聴取の要求が有ると判定した場合は前記発呼者情報検出部で検出した発呼者情報

に特別に割り付けられた一以上の応答メッセージを前記音声データ制御部を介して再生することを特徴とする音声蓄積装置。

【請求項 3】前記メールボックス応答メッセージ管理部は、複数の発呼者情報をグループとして割り付けられた応答メッセージを含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の音声蓄積装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、電話回線（アナログ電話回線、デジタル電話回線）や構内交換機の内線（以下、「回線等」という）に接続され、回線等を介して音声メッセージの録音、再生を行う音声蓄積装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、ボイスメールなどの多数の音声を蓄積できる音声蓄積装置においては、複数の使用者が音声蓄積装置内に各々メールボックスをもち、その使用者に対してメッセージを残したい者（以下、「発呼者」という）は、所定の操作により所望の使用者のメールボックスを指定することにより、当該メールボックスにメッセージを残すようにしていた。この場合、各メールボックスには各使用者自身があらかじめ録音しておいた応答メッセージ又は製品出荷時に録音された応答メッセージが割り当てられており、上記のようにメールボックスが指定された場合には、その指定されたメールボックスの応答メッセージが再生されることになり、その後、発呼者は、当該メールボックスへ音声メッセージを録音する。このように、各メールボックスの応答メッセージは固定しており、発呼者に対応して応答メッセージを変えるようなことはできない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

このように、従来の音声蓄積装置では、或る発呼者に対しては業務関連的な応答メッセージを聞かせ、また別の発呼者に対しては個人的な応答メッセージを聞かせるというように、発呼者に応じて異なった応答メッセージを聞かせたい場合

であっても、メールボックスの応答メッセージは上述のように固定されているため、発呼者に応じてメールボックスの応答メッセージを自由に変えることはできないという問題点を有していた。

【0004】

この音声蓄積装置では、発呼者に応じてメールボックス応答メッセージを変更することが要求されている。

【0005】

本発明は、この要求を満たすため、発呼者に応じてメールボックス応答メッセージを変更することができる音声蓄積装置を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために本発明の音声蓄積装置は、メインガイダンス、応答メッセージ、入来メッセージ等の音声データを蓄積する音声蓄積部と、音声蓄積部に蓄積された音声データを読み出すと共に音声データを蓄積するための音声データ制御部と、全体を制御すると共に音声蓄積部に蓄積された音声データの再生や音声蓄積部への音声データの蓄積を音声データ制御部を介して行う中央制御部と、電話回線や構内交換機内線を含む回線等との接続を行う回線インターフェイス部と、回線等から入来する入力信号から発呼者情報を検出する発呼者情報検出部と、発呼者情報毎に各メールボックスの応答メッセージを割り付けるメールボックス応答メッセージ管理部とを有し、中央制御部は、回線等から回線インターフェイス部への着信時には音声蓄積部に蓄積したメインガイダンスを音声データ制御部を介して再生し、入来する入力信号に基づいてメールボックスの応答メッセージの聴取の要求が有ると判定した場合は発呼者情報検出部が検出した発呼者情報に応じた応答メッセージを音声データ制御部を介して再生する構成を備えている。

【0007】

これにより、発呼者に応じてメールボックス応答メッセージを変更することができる音声蓄積装置が得られる。

【0008】

【発明の実施の形態】

本発明の請求項 1 に記載の音声蓄積装置は、メインガイダンス、応答メッセージ、入来メッセージ等の音声データを蓄積する音声蓄積部と、音声蓄積部に蓄積された音声データを読み出すと共に音声データを蓄積するための音声データ制御部と、全体を制御すると共に音声蓄積部に蓄積された音声データの再生や音声蓄積部への音声データの蓄積を音声データ制御部を介して行う中央制御部と、電話回線や構内交換機内線を含む回線等との接続を行う回線インターフェイス部と、回線等から入来する入力信号から発呼者情報を検出する発呼者情報検出部と、発呼者情報毎に各メールボックスの応答メッセージを割り付けるメールボックス応答メッセージ管理部とを有し、中央制御部は、回線等から回線インターフェイス部への着信時には音声蓄積部に蓄積したメインガイダンスを音声データ制御部を介して再生し、入来する入力信号に基づいてメールボックスの応答メッセージの聴取の要求が有ると判定した場合は発呼者情報検出部が検出した発呼者情報に応じた応答メッセージを音声データ制御部を介して再生することとしたものである。

【0009】

この構成により、音声蓄積装置に着信があると、メインガイダンスによるメールボックスの指定案内を行い、その後発呼者がメールボックスを指定したとき、指定したメールボックスに当該発呼者のためのメールボックスの応答メッセージがある場合には、その応答メッセージを再生することができ、したがって、一つのメールボックスへの登録を会社と個人に分けた発呼者情報に基づき行うことにより、個人用と会社用に応答メッセージを使い分けられることができるという作用を有する。

【0010】

請求項 2 に記載の音声蓄積装置は、メインガイダンス、応答メッセージ、入来メッセージ等の音声データを蓄積する音声蓄積部と、音声蓄積部に蓄積された音声データを読み出すと共に音声データを蓄積するための音声データ制御部と、全体を制御すると共に音声蓄積部に蓄積された音声データの再生や音声蓄積部への音声データの蓄積を音声データ制御部を介して行う中央制御部と、電話回線や構

内交換機内線を含む回線等との接続を行う回線インターフェイス部と、回線等から入来する入力信号から発呼者情報を検出する発呼者情報検出部と、発呼者情報毎に各メールボックスの応答メッセージを割り付けるメールボックス応答メッセージ管理部とを有し、中央制御部は、回線等から回線インターフェイス部への着信時には音声蓄積部に蓄積したメインガイダンスを音声データ制御部を介して再生し、入来する入力信号に基づいて特定メッセージの聴取の要求が有ると判定した場合は発呼者情報検出部で検出した発呼者情報に特別に割り付けられた一以上の応答メッセージを音声データ制御部を介して再生することとしたものである。

【0011】

この構成により、発呼者情報に応じたメールボックス応答メッセージが一以上ある場合に、メールボックスを指定すること無しに応答メッセージを再生することができ、したがって、発呼者情報に関連付けて応答メッセージを録音し、メールボックスを指定することなく応答メッセージを再生する設定を行えば、発呼者はメールボックスを指定しなくても応答メッセージを聞くことができ、応答メッセージを聞く可能性が増えるという作用を有する。

【0012】

請求項3に記載の音声蓄積装置は、請求項1又は2に記載の音声蓄積装置において、メールボックス応答メッセージ管理部は、複数の発呼者情報をグループとして割り付けられた応答メッセージを含むこととしたものである。

【0013】

この構成により、或る複数の発呼者のグループに対してのみ特定の応答メッセージを一度に設定・再生することができ、発呼者各々に応答メッセージを割り付ける必要がなくなるという作用を有する。

【0014】

以下、本発明の実施の形態について、図1～図4を用いて説明する。

【0015】

(実施の形態1)

図1は本発明の実施の形態1による音声蓄積装置を示すブロック図である。

【0016】

図1において、1は音声認識装置、100は回線等（前述したようにアナログ・デジタルの電話回線や構内交換機内線）300とのデータや音声の通信を行うために回線等300毎に設けた音声処理部、200は音声メッセージや音声蓄積装置1全体を制御する中央処理部であり、中央処理部200と複数の音声処理部200（ここでは1～NのN個である）とは音声蓄積装置1を構成する。

【0017】

図1の音声処理部100において、101は回線等300との接続を行う回線インターフェイス部、102は回線等300から入来する発呼者情報を検出する発呼者情報検出部、103は回線等300からDTMF信号等で送られてくる音声蓄積装置1へのアクセス信号を検出する信号検出部、104は回線等300へ電話番号の送出や種々のデータの送出を行う信号出力部、105はデジタル音声信号（例えばPCM信号）をアナログ音声信号に変換し、回線インターフェイス部101へ出力する復号化部、106はアナログ音声信号をデジタル音声信号に変換し、さらに必要に応じて情報圧縮されたデジタル音声信号（例えばADPCM信号）を出力する符号化部、107は音声録音時には符号化部106から出力されるデジタル音声信号を一時的に格納しておき、又メッセージ等の再生時には復号化部105へ入力されるデジタル音声信号を一時的に格納しておく音声バッファ、108は音声バッファ107の読み書きアドレスを制御するバッファアドレス制御部、109は中央処理部200とのやり取りを行いながら音声処理部100全体を制御する回線制御部である。音声処理部100は1回線の音声処理等を行い、上述したように、音声蓄積装置1全体では複数の音声処理部100を有する。

【0018】

また図1の中央処理部200において、201は音声バッファ107に格納されたデジタル音声信号を蓄積する音声メッセージ蓄積部、202はあらかじめ録音された音声ガイダンス（メインガイダンス）を蓄積しておく音声ガイダンス部、203はあらかじめ録音された各々のメールボックスの応答メッセージを蓄積しておくメールボックス応答メッセージ蓄積部、204は音声ガイダンス蓄積部202や音声メッセージ蓄積部201、メールボックス応答メッセージ蓄積部

203からデジタル音声信号を読み出したり、音声バッファ107からのデジタル音声信号を蓄積格納する機能を有する音声データ制御部、205は複数の回線等から音声の入出力を行う回線等を選択して音声バッファ107を音声データ制御部204に接続するチャンネル選択部、206は録音、再生メッセージの格納位置や音声メッセージに付随する情報を管理する音声メッセージ管理部、207は音声ガイダンスや音声ガイダンスに付随する情報の格納位置を管理する音声ガイダンス管理部、208は複数のメールボックスの応答メッセージの格納位置や応答メッセージに付随する情報を各メールボックス毎及び発呼者情報毎に管理するメールボックス応答メッセージ管理部、209は各回線等300に接続された音声処理部100と情報をやり取りしながら適切な音声メッセージ蓄積部201や音声ガイダンス蓄積部202並びにメールボックス応答メッセージ蓄積部203を選択して音声データの録音や再生等を行う中央制御部、210は中央制御部209と各音声処理部の回線制御部109との間でコマンドやステータスの情報をやり取りするコマンドインターフェイス部である。なお、音声メッセージ蓄積部201と音声ガイダンス蓄積部202とメールボックス応答メッセージ蓄積部203とは音声蓄積部を構成する。

【0019】

以上のように構成された音声蓄積装置1について、メールボックス応答メッセージの聴取動作を図2、図3を用いて説明する。図2は図1の音声蓄積装置1におけるメールボックス応答メッセージの聴取動作を示すフローチャートであり、図3はメールボックス応答メッセージ管理部208の管理テーブルを示すテーブル図である。

【0020】

図2において、回線等300から音声蓄積装置1に対して着信がある(S1)と、回線制御部109は回線インターフェイス部101を介して回線等300との接続を行い、発呼者情報が回線等300より送られてきている場合、発呼者情報検知部102により、その情報を取り込む(S2)。ここで、発呼者情報は、局回線からのCaller ID(コーラーID)やナンバーディスプレイの機能として送られてくる場合や、構内交換機からの発呼側の情報を電話回線や音声

蓄積装置 1 への制御線等を通じて送られてくる場合等がある。回線等 300 との接続後、中央制御部 209 は、音声ガイダンス管理部 207 を介して、音声ガイダンス（例えば「こちらはメッセージ・センターです。メールボックス番号を入力してください。」）を回線インターフェイス部 101 へ出力するように制御する（S3）。次に、中央制御部 209 は、上記音声ガイダンス（メインガイダンス）を聞いた発呼者が自己の電話機等のキー操作を行うこと（DTMF やその他の信号等を回線インターフェイス部 101 に送出すること）により所望のメールボックス番号を指定したか否かを判定する（S4）。メールボックス番号の指定が有ったと判定した場合には、中央制御部 209 は、メールボックス応答メッセージ管理部 208 の管理テーブル（図 3）を参照し、発呼者情報検出部 102 で検出した発呼者情報をもとに、発呼者情報（発呼者種類を示す情報）に応じたメールボックスの応答メッセージ群“1”～“Y”の中にその発呼者情報と一致するものが有るかどうかを判定する（S5）。応答メッセージ群の中にその発呼者情報と一致するものがあると判定した場合は、中央制御部 209 は、その一致する発呼者情報に対応した応答メッセージ群番号を設定する（S6）。例えば、回線等 300 から入来した発呼者情報が“発呼者 1”のものであった場合には、対応する応答メッセージ群番号“4”を設定する。ここで、発呼者情報とは、回線等 300 から入来する発信者番号や発信者名等の発呼者毎に各々異なるもの若しくはこれらが重複したものを含む。応答メッセージ群の中に入来した発呼者情報と一致するものがない場合や発呼者情報が回線等 300 から入来していない場合には、メールボックスの応答メッセージ群の中から、発呼者情報による発呼者種類の指定なしとして該当する応答メッセージ群番号を設定する（S7）。図 3 では、メールボックス応答メッセージ管理部 208 の管理テーブルの発呼者情報の示す発呼者種類のうち“無指定”に対応する応答メッセージ群番号“1”が選択される。

【0021】

上記のように応答メッセージ群番号が設定された後、当該設定された応答メッセージ群番号から指定のメールボックスの応答メッセージを再生する（S8）。メールボックスの応答メッセージの再生は、指定のメールボックス応答メッセー

ジ蓄積部 2 0 3 から音声データ制御部 2 0 4 が音声データを読み出してチャンネル選択部 2 0 5 へ出力することにより行う。応答メッセージ再生を例示すると、回線等 3 0 0 に応答メッセージ群番号“5”が割り付けられ、メールボックス 1 の指定が有った場合、M e s s a g e 1－c（例えば「体調抜群元気印の〇〇でやんす！、いかしたメッセージをどうぞ。」）の応答メッセージが再生されることになる。また、回線等 3 0 0 に応答メッセージ群番号“1”が割り付けられ、メールボックス 1 の指定が有った場合、M e s s a g e 1（例えば「××会社の〇〇です。ただ今外出しております、。メッセージのある方は、“ピー”という音の後にメッセージをお入れください。」）の応答メッセージが再生されることになる。このように発呼者情報に対応して、メッセージが変わることになる。応答メッセージの再生後、発呼者は、入来メッセージ（音声メッセージ）の録音のため、メールボックスへの録音を行う（S 9）。メールボックスの録音は、チャンネル選択部 2 0 5 と音声データ制御部 2 0 4 を介して指定のメールボックス応答メッセージ蓄積部 2 0 3 に音声メッセージを蓄積設定することにより行う。

【0 0 2 2】

図 2 において、中央制御部 2 0 9 は、メールボックス番号の指定ではなく、特定情報の再生指定が有ったと判定した場合（S 1 0）、取り込んだ発呼者情報を基に、該当する応答メッセージ番号群の中からあらかじめ特定情報として指定された応答メッセージ群の再生及びメールボックスの録音要求を順次、指定された応答メッセージ群のすべてが終了するまで行う（S 1 1～S 1 3）。例えば、回線等 3 0 0 に応答メッセージ群番号“Y”が割り付けられている場合、応答メッセージ群の中で“*”（あらかじめ特定情報として指定）のついたメールボックス 1 の M e s s a g e 1－d（例えば「〇〇さん、××の件はどのようにしましょうか。」）の応答メッセージやメールボックス M の M e s s a g e M－c（例えば「今週は出張です。緊急の場合には、△△△－□□□□に電話をしてください。」）の応答メッセージが順次再生され、メールボックスの録音要求が行われることになる。

【0 0 2 3】

図 2 のフローチャートには記述していないが、発呼者情報がある場合に、その

発呼者情報に応じたメールボックスの応答メッセージであって特定情報として指定しているものが有れば、メインガイダンス開始前にその旨を再生する要求を発呼者に送出して当該応答メッセージを再生したりすることもできる。

【0024】

また、図3の応答メッセージ群番号“2”や“3”に示すように、複数の発呼者番号をグループ化して発呼者として割り付けることも可能である。発呼者1と発呼者2をグループ化して割り付けた場合、発呼者1と発呼者2のどちらの発呼者情報が入来しても、そのグループの応答メッセージの再生を行う。また、単独のもの（たとえば、発呼者1）とグループ（たとえば、発呼者1と発呼者2をグループ化したグループ1）とが存在し、発呼者1の発呼者情報が入来した場合には、発呼者1のみの再生やグループのみの再生若しくは発呼者1とグループ1の応答メッセージの両方の再生のいずれかをあらかじめ設定することもできる。

【0025】

次に、図1の音声蓄積装置1におけるメールボックスの応答メッセージ録音動作を図4を用いて説明する。図4は、図1の音声蓄積装置1におけるメールボックスの応答メッセージ録音動作を示すフローチャートである。

【0026】

図4において、使用者が回線等300から音声蓄積装置1に対して着信をする（S21）と、回線制御部109は回線インターフェイス部101を介して回線等300との接続を行い、メインガイダンス（例えば「こちらはメッセージセンターです。メールボックスを指定する場合は、メールボックス番号を入力してください。加入者サービス案内を指定する場合は、“#”を入力してください。」）が流れる（S22）。使用者が加入者サービス案内を指定すると、加入者サービス案内のガイダンス（たとえば、「加入者サービス案内です。メールボックスへのメッセージの再生要求の場合は“1”を、メールボックスの応答メッセージ録音の場合は“2”を入力してください」）が流れる（S23）。使用者がメールボックスの応答メッセージ録音を指定すると、メールボックスの応答メッセージ録音のガイダンス（例えば「メールボックス応答メッセージを録音することができます。通常のメールボックス応答メッセージの場合は“1”、発呼者情報用

応答メッセージの場合は“2”を入力してください。」)が流れる(S24)。使用者が発呼者情報用応答メッセージを指定すると、応答メッセージ録音案内のガイダンス(例えば「発呼者番号を入力し、その後応答メッセージを録音してください。」)が流れ(S25)、使用者は、発呼者番号を入力する。発呼者番号の入力に際して、特定情報として指定する場合には番号の前に“*”を入力する。発呼者番号の入力後、使用者は応答メッセージを入力する(S26)。

【0027】

また、複数の発呼者を発呼者グループとしてグループ化することは、応答メッセージの入力前後にメインガイダンスに従いグループ番号を入力することにより可能である。なお、本実施の形態では発呼者情報として発呼者番号を用いた場合を示したが、本発明はこれに限らず、発呼者の名前やIDでもかまわない。

【0028】

以上のように本実施の形態によれば、中央制御部209は、回線等300から回線インターフェイス部101への着信時には音声蓄積部を構成する音声ガイダンス蓄積部202に蓄積したメインガイダンスを音声データ制御部204を介して再生し、入来する入力信号に基づいてメールボックスの応答メッセージの聴取の要求が有ると判定した場合は発呼者情報検出部102が検出した発呼者情報に応じた応答メッセージを音声データ制御部204を介して再生するようにしたことにより、音声蓄積装置1に着信があると、メインガイダンスによるメールボックスの指定案内を行い、その後発呼者がメールボックスを指定したとき、指定したメールボックスに当該発呼者のためのメールボックスの応答メッセージがある場合には、その応答メッセージを再生することができ、したがって、一つのメールボックスへの登録を会社と個人に分けた発呼者情報に基づき行うことにより、個人用と会社用に応答メッセージを使い分けることができる。

【0029】

また、中央制御部209は、回線等300から回線インターフェイス部101への着信時には音声蓄積部を構成する音声ガイダンス地区制部202に蓄積したメインガイダンスを音声データ制御部204を介して再生し、入来する入力信号に基づいて特定メッセージの聴取の要求が有ると判定した場合は発呼者情報検出

部 1 0 2 で検出した発呼者情報に特別に割り付けられた一以上の応答メッセージを音声データ制御部 2 0 4 を介して再生するようにしたことにより、発呼者情報に応じたメールボックス応答メッセージが一以上ある場合に、メールボックスを指定すること無しに応答メッセージを再生することができ、したがって、発呼者情報に関連付けて応答メッセージを録音し、メールボックスを指定することなく応答メッセージを再生する設定を行えば、発呼者はメールボックスを指定しなくても応答メッセージを聞くことができ、応答メッセージを聞く可能性を増加させることができる。

【0 0 3 0】

さらに、メールボックス応答メッセージ管理部 2 0 8 は、複数の発呼者情報をグループとして割り付けられた応答メッセージを含むようにしたことにより、或る複数の発呼者のグループに対してのみ特定の応答メッセージを一度に設定・再生することができ、発呼者各々に応答メッセージを割り付ける必要がなくなる。

【0 0 3 1】

【発明の効果】

以上説明したように本発明の請求項 1 に記載の音声蓄積装置によれば、メインガイドンス、応答メッセージ、入来メッセージ等の音声データを蓄積する音声蓄積部と、音声蓄積部に蓄積された音声データを読み出すと共に音声データを蓄積するための音声データ制御部と、全体を制御すると共に音声蓄積部に蓄積された音声データの再生や音声蓄積部への音声データの蓄積を音声データ制御部を介して行う中央制御部と、電話回線や構内交換機内線を含む回線等との接続を行う回線インターフェイス部と、回線等から入来する入力信号から発呼者情報を検出する発呼者情報検出部と、発呼者情報毎に各メールボックスの応答メッセージを割り付けるメールボックス応答メッセージ管理部とを有し、中央制御部は、回線等から回線インターフェイス部への着信時には音声蓄積部に蓄積したメインガイドンスを音声データ制御部を介して再生し、入来する入力信号に基づいてメールボックスの応答メッセージの聴取の要求があると判定した場合は発呼者情報検出部が検出した発呼者情報に応じた応答メッセージを音声データ制御部を介して再生することにより、音声蓄積装置に着信があると、メインガイドンスによるメール

ボックスの指定案内を行い、その後発呼者がメールボックスを指定したとき、指定したメールボックスに当該発呼者のためのメールボックスの応答メッセージがある場合には、その応答メッセージを再生することができ、したがって、一つのメールボックスへの登録を会社と個人に分けた発呼者情報に基づき行うことにより、個人用と会社用に応答メッセージを使い分けることができるという有利な効果が得られる。

【 0 0 3 2 】

請求項 2 に記載の音声蓄積装置によれば、メインガイダンス、応答メッセージ、入来メッセージ等の音声データを蓄積する音声蓄積部と、音声蓄積部に蓄積された音声データを読み出すと共に音声データを蓄積するための音声データ制御部と、全体を制御すると共に音声蓄積部に蓄積された音声データの再生や音声蓄積部への音声データの蓄積を音声データ制御部を介して行う中央制御部と、電話回線や構内交換機内線を含む回線等との接続を行う回線インターフェイス部と、回線等から入来する入力信号から発呼者情報を検出する発呼者情報検出部と、発呼者情報毎に各メールボックスの応答メッセージを割り付けるメールボックス応答メッセージ管理部とを有し、中央制御部は、回線等から回線インターフェイス部への着信時には音声蓄積部に蓄積したメインガイダンスを音声データ制御部を介して再生し、入来する入力信号に基づいて特定メッセージの聴取の要求があると判定した場合は発呼者情報検出部で検出した発呼者情報に特別に割り付けられた一以上の応答メッセージを音声データ制御部を介して再生することにより、発呼者情報に応じたメールボックス応答メッセージが一以上ある場合に、メールボックスを指定すること無しに応答メッセージを再生することができ、したがって、発呼者情報に関連付けて応答メッセージを録音し、メールボックスを指定することなく応答メッセージを再生する設定を行えば、発呼者はメールボックスを指定しなくても応答メッセージを聞くことができ、応答メッセージを聞く可能性を増加させることができるという有利な効果が得られる。

【 0 0 3 3 】

請求項 3 に記載の音声蓄積装置によれば、メールボックス応答メッセージ管理部は、複数の発呼者情報をグループとして割り付けられた応答メッセージを含む

ことにより、或る複数の発呼者のグループに対してのみ特定の応答メッセージを一度に設定・再生することができ、発呼者各々に応答メッセージを割り付ける必要がなくなるという有利な効果が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施の形態 1 による音声蓄積装置を示すブロック図

【図 2】

図 1 の音声蓄積装置におけるメールボックス応答メッセージの聴取動作を示すフローチャート

【図 3】

メールボックス応答メッセージ管理部の管理テーブルを示すテーブル図

【図 4】

図 1 の音声蓄積装置におけるメールボックスの応答メッセージ録音動作を示すフローチャート

【符号の説明】

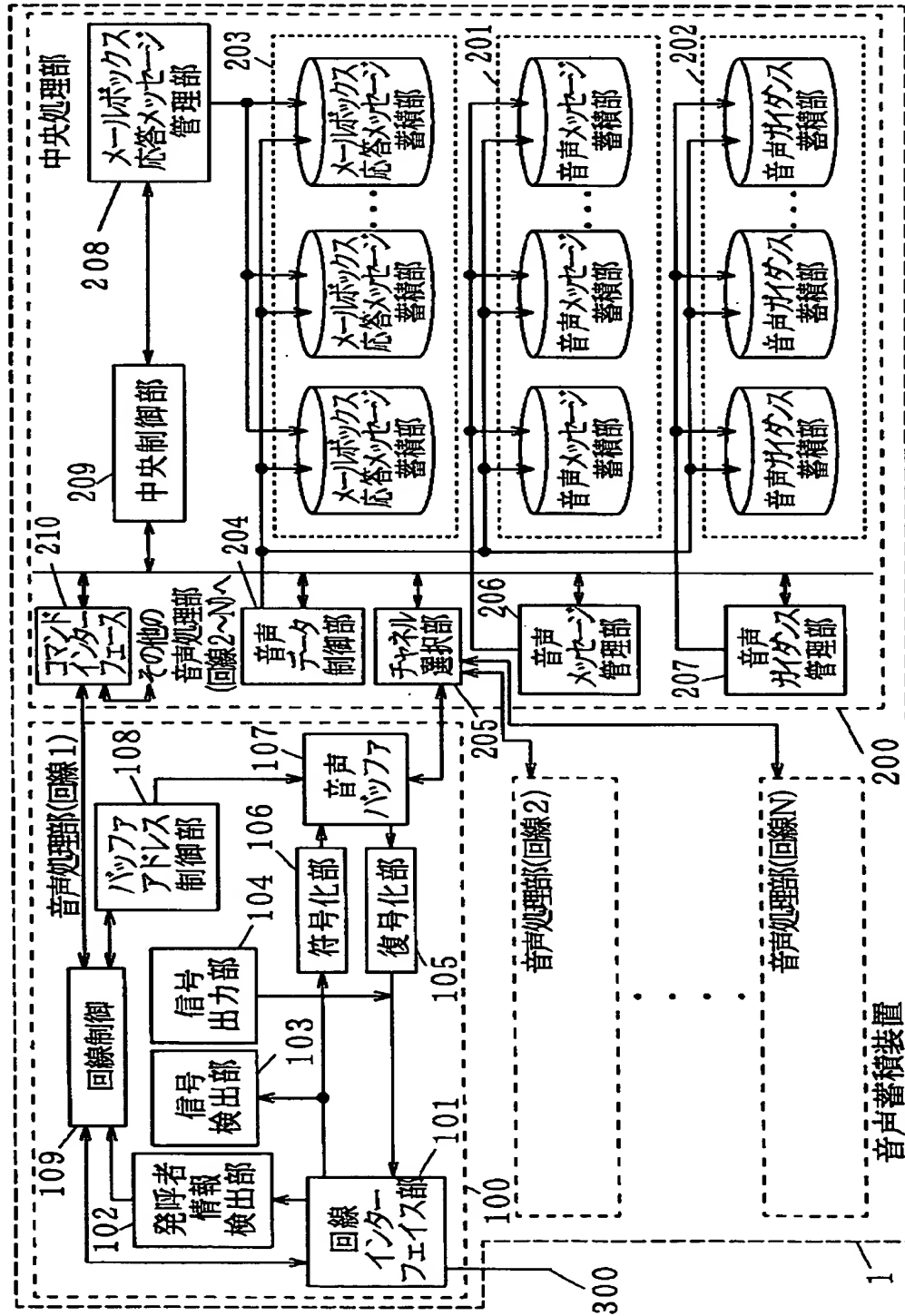
- 1 音声蓄積装置
 - 1 0 0 音声処理部
 - 1 0 1 回線インターフェイス部
 - 1 0 2 発呼者情報検出部
 - 1 0 3 信号検出部
 - 1 0 4 信号出力部
 - 1 0 5 復号化部
 - 1 0 6 符号化部
 - 1 0 7 音声バッファ
 - 1 0 8 バッファアドレス制御部
 - 1 0 9 回線制御部
 - 2 0 0 中央処理部
 - 2 0 1 音声メッセージ蓄積部（音声蓄積部）
 - 2 0 2 音声ガイダンス蓄積部（音声蓄積部）

- 2 0 3 メールボックス応答メッセージ蓄積部（音声蓄積部）
- 2 0 4 音声データ制御部
- 2 0 5 チャンネル選択部
- 2 0 6 音声メッセージ管理部
- 2 0 7 音声ガイダンス管理部
- 2 0 8 メールボックス応答メッセージ管理部
- 2 0 9 中央制御部
- 2 1 0 コマンドインターフェイス部
- 3 0 0 回線等

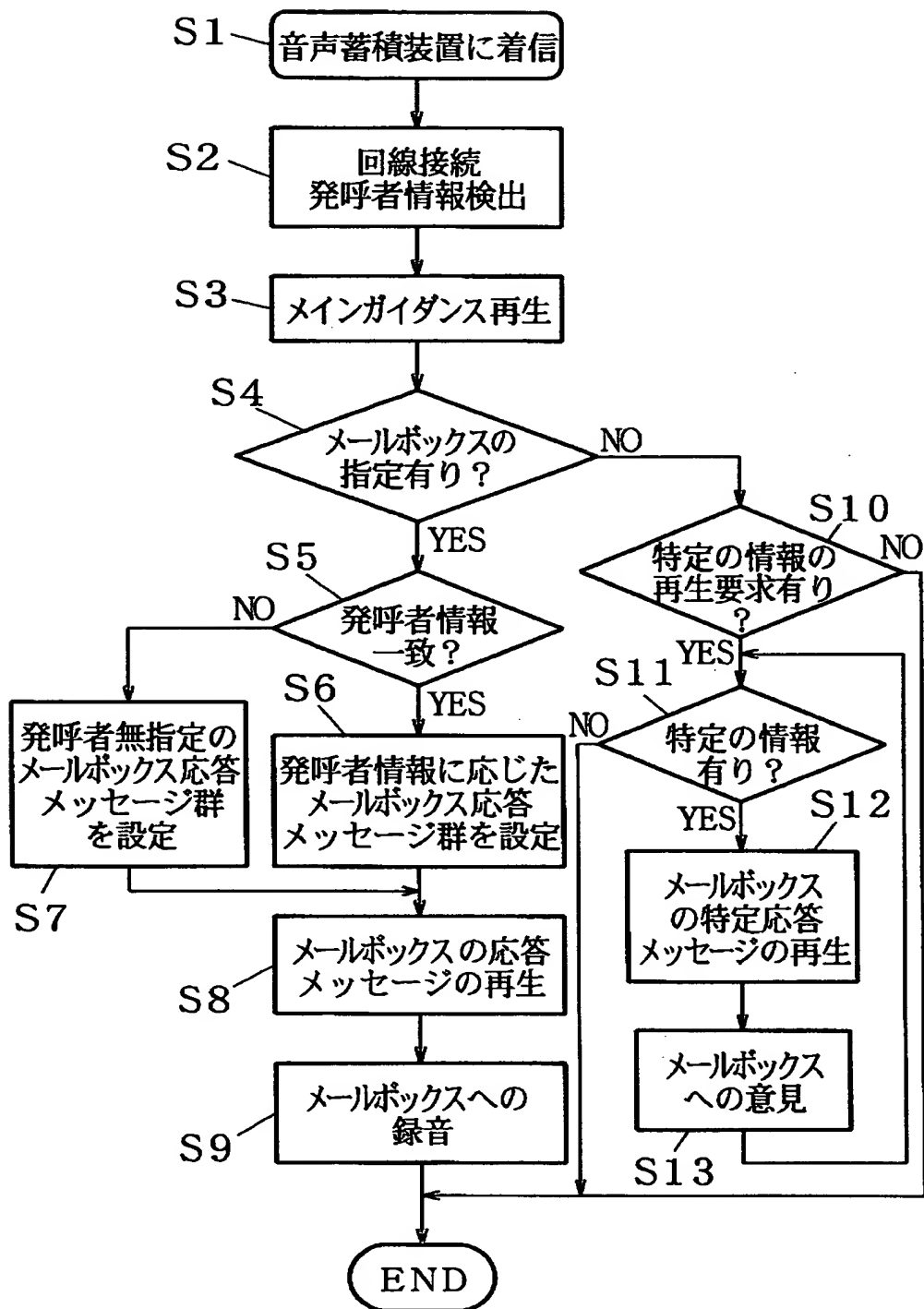
【書類名】

図面

【図 1】



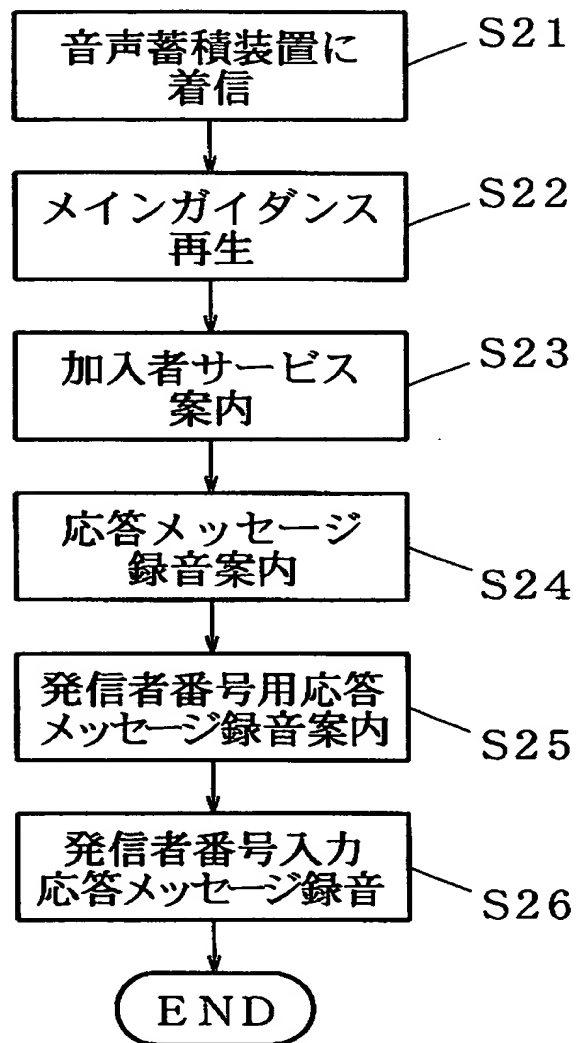
【図 2】



【図 3】

応答 メッセージ群 番号	発呼者種類	メールボックス 1	メールボックス 2	...	メールボックス M
1	無指定	Message1	Message2	...	MessageM
2	発呼者グループ 1	Message1-a	Message2	...	MessageM
3	発呼者グループ 2	Message1	Message2-a	...	MessageM
4	発呼者 1	Message1	Message2-b	...	MessageM
5	発呼者 2	*Message1-c	Message2	...	*MessageM-b
...
Y	発呼者 N	*Message1-d	Message2-c	...	*MessageM-c

【図4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 発呼者に応じてメールボックス応答メッセージを変更することができる音声蓄積装置を提供することを目的とする。

【解決手段】 音声蓄積部 2 0 1～2 0 3 と、蓄積音声データを読み出すと共に音声データを蓄積するための音声データ制御部 2 0 4 と、蓄積音声データの再生や音声データの蓄積を行う中央制御部 2 0 9 と、回線等 3 0 0 との接続を行う回線インターフェイス部 1 0 1 と、入来入力信号から発呼者情報を検出する発呼者情報検出部 1 0 2 と、発呼者情報毎に各メールボックスの応答メッセージを割り付けるメールボックス応答メッセージ管理部 2 0 8 とを有し、中央制御部は、回線インターフェイス部への着信時には音声蓄積部のメインガイダンスを再生し、入来する入力信号に基づいてメールボックスの応答メッセージの聴取の要求があると判定した場合は検出发呼者情報に応じた応答メッセージを再生する。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005821]

1. 変更年月日	1990年 8月28日
[変更理由]	新規登録
住 所	大阪府門真市大字門真1006番地
氏 名	松下電器産業株式会社